

魚介類の消費動向に関する研究 (2)

— 家計調査年報より —

Research on Consumption Trend on Sea Foods (2)

— through Annual Report on the Family Income and Expenditure Survey —

新澤 祥恵*¹、田中 弘美*²

要旨

魚介類の消費動向と当地域の魚食の特徴を知るため、『家計調査年報』における魚介類の支出金額と消費数量により検討したところ、1980年代は魚介類への支出金額も多かったが、近年は減少傾向にあることや、近年は、大型魚の消費が増加していること、また、金沢市においては、「かに」「かれい」「ぶり」「いわし」の位置づけの高いことが明確になった。

キーワード：魚食(Fish meal)／和食(Wasyoku)／
家計調査(Family income and expenditure survey)

I. はじめに

平均余命が男女とも世界一の水準を維持する中、この背景として日本型食生活の優位性が評価されていることは周知のことである。日本型食生活とは、1980年頃の食生活でごはんを中心に動物性食品などを主材料とする主菜と野菜類を使う副菜を組み合わせた食事に、適度に牛乳・乳製品と果物が加えることで、栄養素のバランスが良好になるものである。この中で、特に、わが国では欧米と異なり、魚介類が多く摂取されていることも大きく評価されている¹⁾。

明治時代に至るまで、肉食を避けていた日本人にとって、その後も魚介類は重要なタンパク質源のひとつであった。周囲を海に囲まれ、河川や湖沼などの水資源が豊富な我が国では、魚介類は比較的入手しやすい食料でもあったといえる。前報においても報告したが、戦後の食料難時代にあっても、1人1日45gの摂取量があったことは、調達が可能な風土であることを示している²⁾。

魚介類は良質のタンパク質を多く含むことの他

に、脂質には不飽和脂肪酸が多く、心臓血管系疾患の予防や治療、脳の老化防止作用などが期待されるエイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)が多いことも特徴である³⁾。

一方、我々が食用としている魚介類は、肉類と異なり、その種類は多く、調理方法も多様であり、食生活の変化とともに、魚介類の摂取形態も変化しているものと考えられる。

筆者らは、これまでに魚介類の消費動向について『国民健康・栄養調査』、『食料需給表』、『金沢市中央卸売市場年報』、『家計調査年報』の統計データにより、経年的に減少傾向にあることや、当地の魚食の傾向を検討し、報告した。この中で、『家計調査(年報)』は、終戦後の1946年に消費者価格調査としてはじめられたものが、今日に至っており、全国的規模で経年的に続いている調査として、世界的にも類をみないものと言われている。特に、物価指数を知るためのみではなく、国民の消費生活を知るための資料として評価されているものでもある⁴⁾。

そこで、「魚食文化」を視野に入れ、『家計調査(年報)』^{5)~11)}より、魚介類の消費動向について解析し、今後の方向性を考えるものである。

*¹ NIIZAWA, Yoshie

北陸学院大学短期大学部 食物栄養学科 調理学

*² TANAKA, Hiromi

北陸学院大学短期大学部 食物栄養学科 給食管理実習

II. 研究方法

1) 調査文献

- ①『家計調査年報 平成26年』
- ②『家計調査年報 平成25年』
- ③『家計調査年報 平成20年』
- ④『家計調査年報 平成15年』
- ⑤『家計調査年報 平成10年』
- ⑥『家計調査年報 平成5年』
- ⑦『家計調査年報 昭和63年』

2) 検討内容

- ①食料費支出における各食品類支出の経年変化
- ②平成26年の家計調査より
 - a 収入階級と「魚介類」の消費支出
 - b 世帯主の年齢階級と「魚介類」の消費支出
 - c 世帯人員数と「魚介類」の消費支出
 - d 地域別の「魚介類」の消費支出
- ③魚介類品目毎の消費数量の推移
- ④地域別の「魚介類」の消費数量と「金沢市」における魚介類の消費動向

III. 結果と考察

1. 食料費支出における「魚介類」の消費支出の位置づけと経年変化

『家計調査年報』においては、「消費支出」の中の「食料」については、「穀類」「魚介類」「乳卵類」「野菜・海藻」「果物」「油脂・調味料」「菓子類」「調理食品」「飲料」「酒類」「外食」「賄費」に分類されている。そこで、食料支出の金額の中でそれぞれの占める比率を算出し、さらに、1963年より2014年までの約50年間について、5年間隔で経年変化を示したものが、表1である。ここでは、併せて、エンゲル係数の経年変化も示した。なお、このデータは、近年の調査では「総世帯」のものである。エンゲル係数は、この「家計調査」の中では、「消費支出の中に占める食料費の割合」として算出されているものである。エンゲル係数は、一般的には生活水準を示す指標とされるもので、生活水準が高くなると低くなるものと解釈されている。ただ、食料費には価格も影響することから、購入食料の質が高くなれば食料費が高額になると予想されることから、必ずしも生活水準に反比例するとは言えないが、大雑把には生活水準の評価に使えるものと考えられる¹²⁾。わが

国のエンゲル係数の推移をみると、終戦直後の1948年には60.3%であったものが、1963年には40.5%となり、1983年には30.0%になり、その後は20%台を推移し、2014年は24.0%となっていた。

次に、食料支出における、各食品類の比率をみた。2014年の結果をみると、最も多いのは「外食」で約2割を占めている。次いで「調理食品」「野菜・海藻」の比率でそれぞれ1割を超えている。「魚介類」への支出は8.3%で、「穀類」「肉類」とほぼ同じ比率となっている。

食品類毎の支出比率の変化をみると、減少傾向の著しいのは「穀類」で、1963年に23.5%であったものが、2014年には8.3%と約1/3に減少している。反対に、増加傾向にあったのは、「調理食品」で3.0%から13.0%と4倍以上に増加した。次いで増加傾向にあったのは「外食」で7.0%から19.5%と2.8倍の増加となっており、食の外部化を示しているといえよう。一方、「野菜・海藻」は10%から14%の間を推移している。これらに対し、「魚介類」は1963年は11.6%で、その後増加傾向を示し、1978年には14.4%となり、1983年13.8%、1988年13.7%と高い水準が続いた。所謂、日本型食生活のモデルの時期といわれる1980年代は「魚介類」への支出も大きいことを示している。その後、減少傾向に転じ、この数年は、10%をきり、現在は8.3%となっている。同じ動物性食品の「肉類」は1963年7.8%であったものが、1973年には11.0%に上昇したが、その後、減少した。近年は「魚介類」と逆転し、現在は、8.8%と若干「魚介類」を上回っている。「乳卵類」は、他の食品に比べ、価格が安定していたためか、摂取量は増加しているにもかかわらず、1963年7.5%から現在は4.8%とずっと減少傾向が続いていた。

以上、食品類毎の消費支出金額における比率を検討したところ、物価指数の影響もあり、必ずしも摂取量と連関しなかったが、近年の食の外部化傾向や、穀類摂取量の大幅な減少、1980年頃の日本型食生活の「魚介類」の位置づけなども明確に示された。

2. 収入階級と「魚介類」の消費支出

近年、所得格差の拡大が問題となっているが、

表1. 食料支出の経年変化

上段：支出金額(円) 下段：食料支出に対する比率(%)

	1963年	1968年	1973年	1978年	1983年	1988年	1993年	1998年	2003年	2008年	2013年	2014年
集計世帯数	5,541	7,825	8,050	7,977	7,984	7,983	7,962	7,941	8,625	8,521	8,478	8,467
世帯人員(人)	4.3	4.1	3.9	3.8	3.8	3.6	3.5	3.3	2.6	2.5	2.4	2.4
世帯主の年齢(歳)	44.2	43.9	44.0	44.3	46.2	48.3	50.3	52.1	53.5	55.6	58.0	58.3
消費支出計	40,246	63,607	112,116	201,715	259,521	291,122	335,246	328,186	266,432	261,306	251,576	251,481
食料計	16,315	23,900	38,266	65,819	77,960	74,173	81,562	78,156	61,441	60,583	59,375	60,272
穀類	3,835	4,481	4,987	8,665	9,940	9,108	9,699	7,921	5,730	5,452	5,140	5,039
	23.5	18.7	13.0	13.2	12.8	12.3	11.9	10.1	9.3	9.0	8.7	8.4
魚介類	1,897	2,987	5,043	9,461	10,773	10,193	10,758	9,435	6,226	5,576	4,966	5,013
	11.6	12.5	13.2	14.4	13.8	13.7	13.2	12.1	10.1	9.2	8.4	8.3
肉類	1,266	2,213	4,215	7,182	8,010	7,540	7,516	6,951	4,704	5,082	4,981	5,315
	7.8	9.3	11.0	10.9	10.3	10.2	9.2	8.9	7.7	8.4	8.4	8.8
乳卵類	1,222	1,883	2,363	3,354	3,643	3,373	3,746	3,858	2,908	2,694	2,797	2,882
	7.5	7.9	6.2	5.1	4.7	4.5	4.6	4.9	4.7	4.4	4.7	4.8
野菜・海藻	2,052	2,878	5,027	7,734	9,379	9,434	10,602	10,429	7,105	6,801	6,745	6,848
	12.6	12.0	13.1	11.7	12.0	12.7	13.0	13.3	11.6	11.2	11.4	11.4
果物	875	1,500	2,531	3,905	4,127	3,392	3,400	3,191	2,339	2,245	2,217	2,248
	5.4	6.3	6.6	5.9	5.3	4.6	4.2	4.1	3.8	3.7	3.7	3.7
油脂・調味料	1,079	1,275	1,854	2,776	3,179	2,863	3,285	3,261	2,532	2,629	2,615	2,661
	6.6	5.3	4.8	4.2	4.1	3.9	4.0	4.2	4.1	4.3	4.4	4.4
菓子類	1,204	1,695	2,703	4,874	5,840	4,822	5,641	5,057	4,014	4,187	4,208	4,301
	7.4	7.1	7.1	7.4	7.5	6.5	6.9	6.5	6.5	6.9	7.1	7.1
調理食品	493	771	1,626	3,097	4,757	5,475	7,160	7,968	7,309	7,230	7,560	7,810
	3.0	3.2	4.2	4.7	6.1	7.4	8.8	10.2	11.9	11.9	12.7	13.0
飲料	408	839	1,680	2,869	2,886	2,604	2,991	3,408	3,246	3,356	3,615	3,601
	2.5	3.5	4.4	4.4	3.7	3.5	3.7	4.4	5.3	5.5	6.1	6.0
酒類	840	1,295	1,949	3,268	3,832	3,682	3,768	3,833	2,924	2,925	2,709	2,783
	5.2	5.4	5.1	5.0	4.9	5.0	4.6	4.9	4.8	4.8	4.6	4.6
外食	1,145	2,086	4,289	8,635	11,593	11,687	12,994	12,844	12,320	12,313	11,755	11,726
	7.0	8.7	11.2	13.1	14.9	15.8	15.9	16.4	20.1	20.3	19.8	19.5
賄い費								84		90	67	46
エンゲル係数(%)	40.5	37.6	34.1	32.6	30.0	25.5	24.3	23.8	23.1	23.2	23.6	24.0

『家計調査』では、年間収入を「Ⅰ：～2,440,000円」「Ⅱ：2,440,000～3,600,000円」「Ⅲ：3,600,000～5,040,000円」「Ⅳ：5,040,000～7,370,000円」「Ⅳ：7,370,000円～」の5段階に分けての支出金額が示されている。表2は、年間支出5分位階級による食品類毎の「食料」支出に占める比率を示したものである。表に示すように、ほとんどの食品類は収入が少なくなるほどその比率を上げている。「魚介類」も所得の少ない「Ⅰ」では9.0%、「Ⅱ」9.2%、「Ⅲ」8.8%、「Ⅳ」7.8%、「Ⅴ」7.6%と所得の多い世帯ほど少なくなる傾向を示していた。消費比率が所得に反比例するものは、必需的な要素が強いものと考えられる。これらに対し、「肉類」は「Ⅰ」は7.2%、「Ⅱ」8.2%、「Ⅲ」8.7%、「Ⅳ」9.4%、「Ⅴ」9.4%と、「魚介類」等とは全く反対の傾向を示しており、同様に「外

食」も「Ⅰ」は15.1%、「Ⅱ」16.1%、「Ⅲ」17.9%、「Ⅳ」20.6%、「Ⅴ」23.4%と所得と比例関係であった。消費比率が所得に比例するものは、一般に贅沢的要素があるものと考えられる。

この結果より、日本人の食生活において、「魚介類」は日常的・必需的感覚で消費されるのに対し、「肉類」は価格が高くないのにもかかわらず、依然、贅沢品的な感覚が残されていることが推察された。

3. 世帯主の年齢階級と「魚介類」の消費支出

表3は世帯主の年齢階級による食品類毎の「食料」支出に占める比率を示したものである。

表のように、多くの食品類で年齢階級が高くなるほど比率を上げている。すなわち、最も年齢階級の低い20歳台ではほとんどの食品類の支出比率

表2. 年間収入による食料支出の比較

	上段：支出金額 (円) 下段：食料支出に対する比率 (%)					
	平均	Ⅰ ～2,44	Ⅱ 2,44～3,60	Ⅲ 3,60～5,04	Ⅳ 5,04～7,37	Ⅴ 7,37～
集計世帯数	8,467	948	1,623	1,909	2,005	1,982
世帯人員(人)	2.41	1.33	2.01	2.50	2.97	3.23
世帯主の年齢(歳)	58.3	65.8	61.6	57.5	52.7	53.8
消費支出計	251,481	133,853	199,638	241,940	285,201	396,774
食料計	60,272	35,260	51,482	60,211	68,787	85,622
穀類	5,039	3,168	4,501	5,140	5,790	6,594
	8.4	9.0	8.7	8.5	8.4	7.7
魚介類	5,013	3,183	4,738	5,287	5,331	6,526
	8.3	9.0	9.2	8.8	7.8	7.6
肉類	5,315	2,541	4,241	5,250	6,476	8,069
	8.8	7.2	8.2	8.7	9.4	9.4
乳卵類	2,882	1,815	2,464	2,944	3,234	3,953
	4.8	5.1	4.8	4.9	4.7	4.6
野菜・海藻	6,848	4,639	6,275	7,074	7,342	8,910
	11.4	13.2	12.2	11.7	10.7	10.4
果物	2,248	1,688	2,205	2,342	2,233	2,769
	3.7	4.8	4.3	3.9	3.2	3.2
油脂・調味料	2,661	1,608	2,337	2,746	3,010	3,603
	4.4	4.6	4.5	4.6	4.4	4.2
菓子類	4,301	2,427	3,552	4,332	5,187	6,010
	7.1	6.9	6.9	7.2	7.5	7.0
調理食品	7,810	5,003	7,126	7,794	8,807	10,320
	13.0	14.2	13.8	12.9	12.8	12.1
飲料	3,601	2,239	3,199	3,545	4,056	4,969
	6.0	6.3	6.2	5.9	5.9	5.8
酒類	2,783	1,612	2,471	2,873	3,126	3,835
	4.6	4.6	4.8	4.8	4.5	4.5
外食	11,726	5,313	8,279	10,801	14,169	20,066
	19.5	15.1	16.1	17.9	20.6	23.4
賄い費	46	24	95	84	25	0
	0.1					
エンゲル係数(%)	24.0	26.3	25.8	24.9	24.1	21.6

が小さくなっており、代わりに大きな比率を占めているのが「外食」の44.7%である。また、「調理食品」も14.6%で年齢階級の中では最も大きく、両者を合わせると、約6割が中食、外食の食料費であり、内食のものは半分以下となっており、この年代では、食の外部化率の高いことが伺える。他の年齢階級では、「調理食品」「外食」に関しては、他の食品と反対に、年齢階級が高くなるほどその比率が低くなっていった。特に、「野菜・海藻」と「果物」が顕著であり、「野菜・海藻」は20歳台が4.3%に対し、70歳以上は14.6%、「果物」は20歳台が僅か1.1%に対し、70歳以上は5.6%と世代間の差が大きくなっていった。

「魚介類」も「野菜・海藻」や「果物」と同様に世代間格差が大きく、20歳台2.2%、30歳台4.4%、40歳台5.5%、50歳台7.6%、60歳台10.2%、

70歳以上11.4%で、60歳を境にその比率を高めていた。一方、「肉類」と「乳卵類」は20歳台を除いてはほぼ同じ水準で、「肉類」は70歳以上になると減少し、「乳卵類」は、反対に、70歳以上ではやや多くなっていた。

「若者の魚離れ」ということが言われるようになって久しいが、家計における消費支出をみると、若年層から中年層にかけての幅広い世代で、「魚」から「肉」へ移行が進んでいるものと推察された。

4. 世帯人員数と「魚介類」の消費支出

表4は、世帯人員数による食品類毎の「食料」支出に占める比率を示したものである。

2014年度の調査世帯数をみると、最も多いのは、「2人」であり、約40%を占めている。また、

表3. 世帯主の年齢階級による食料支出の比較

上段：支出金額（円） 下段：食料支出に対する比率（%）

	平均	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
集計世帯数	8,467	194	941	1,495	1,395	2,004	2,437
世帯人員(人)	2.41	1.55	2.98	3.16	2.69	2.27	1.89
世帯主の年齢(歳)	58.3	25.7	35.1	44.5	54.7	64.6	76.9
消費支出計	251,481	177,972	250,479	294,528	303,311	261,307	205,678
食料計	60,272	42,421	57,691	68,444	67,234	64,662	52,669
穀類	5,039	2,260	4,424	5,832	5,576	5,525	4,646
	8.4	5.3	7.7	8.5	8.3	8.5	8.8
魚介類	5,013	926	2,556	3,797	5,121	6,572	6,005
	8.3	2.2	4.4	5.5	7.6	10.2	11.4
肉類	5,315	1,806	4,783	6,546	6,378	5,925	4,403
	8.8	4.3	8.3	9.6	9.5	9.2	8.4
乳卵類	2,882	1,147	2,498	3,003	3,096	3,131	2,948
	4.8	2.7	4.3	4.4	4.6	4.8	5.6
野菜・海藻	6,848	1,813	4,560	6,034	7,291	8,213	7,701
	11.4	4.3	7.9	8.8	10.8	12.7	14.6
果物	2,248	487	1,102	1,505	2,158	2,866	2,945
	3.7	1.1	1.9	2.2	3.2	4.4	5.6
油脂・調味料	2,661	990	2,200	2,820	2,974	3,034	2,575
	4.4	2.3	3.8	4.1	4.4	4.7	4.9
菓子類	4,301	2,704	4,851	5,420	4,709	4,353	3,509
	7.1	6.4	8.4	7.9	7.0	6.7	6.7
調理食品	7,810	6,202	7,059	8,811	9,005	8,363	6,734
	13.0	14.6	12.2	12.9	13.4	12.9	12.8
飲料	3,601	3,130	3,866	4,237	4,204	3,745	2,806
	6.0	7.4	6.7	6.2	6.3	5.8	5.3
酒類	2,783	1,259	2,093	2,926	3,593	3,419	2,294
	4.6	3.0	3.6	4.3	5.3	5.3	4.4
外食	11,726	18,955	17,635	17,510	13,128	9,516	6,102
	19.5	44.7	30.6	25.6	19.5	14.7	11.6
賄い費	46	742	63	2	1	0	0
	0.1	1.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
エンゲル係数(%)	24.0	23.8	23.0	23.2	22.2	24.7	25.6

「1人」世帯は約8%であった。

「1人」世帯は、世帯主の年齢の平均が58.3歳であり、世帯主の年齢が若いものもここに属するものが多い一方で、世帯主が高齢のものもかなり多いことが推察される。また、「2人」世帯は世帯主の年齢の平均が66.3歳で最も高くなっている。

食品類毎の消費支出をみると、「外食」が30.1%と最も多く、「調理食品」も15.2%と複数人員の世帯に比べて多く、独居世帯での調理の外部依存の状況が伺えるものである。

他の食品類では、「穀類」は、世帯人員が多くなるほど、その比率を高めており、1人当たりの食料支出が家族数に反比例して少なくなる中、主食として一定の支出が確保されているものと考えられる。「肉類」も同様に世帯人員数に比例して、

消費支出の比率を高めていた。

「魚介類」は、世帯人員「2人」の世帯が10.4%と最も多く、次いで「3人」の世帯であり、世帯人員が4人以上では、「魚介類」よりも「肉類」多くなっている。魚料理は一尾付けや1人一切れといった個々に対応する使い方の料理が多くなることから、家族数が多くなると、肉料理の方が利用しやすいものとも考えられる。

この他、「野菜・海藻」や「果物」でも「2人」世帯の消費比率が高くなっていた。

5. 地域別の「魚介類」の消費支出

『家計調査』では、都道府県庁所在市を調査しており、各都市毎のものや地方別のものが公表されている。そこで、当地域の特徴を明確にするため、表5では、北陸地方の4都市（金沢市、新潟

表4. 世帯人員数による食料支出の比較

上段：支出金額(円) 下段：食料支出に対する比率(%)

	平均	1人	2人	3人	4人	5人	6人～
集計世帯数	8,467	693	3,403	1,929	1,661	579	202
世帯人員(人)	2.41	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	6.30
世帯主の年齢(歳)	58.3	58.4	66.3	56.4	48.7	48.2	53.9
消費支出計	251,481	162,002	258,213	295,788	325,871	334,420	365,865
食料計	60,272	38,539	61,142	70,805	77,875	83,683	97,268
穀類	5,039	2,538	5,084	6,190	7,159	7,995	9,248
	8.4	6.6	8.3	8.7	9.2	9.6	9.5
魚介類	5,013	2,228	6,354	6,429	5,693	6,022	7,954
	8.3	5.8	10.4	9.1	7.3	7.2	8.2
肉類	5,315	1,702	5,349	7,004	8,419	9,569	11,373
	8.8	4.4	8.7	9.9	10.8	11.4	11.7
乳卵類	2,882	1,455	3,064	3,532	3,962	4,106	5,269
	4.8	3.8	5.0	5.0	5.1	4.9	5.4
野菜・海藻	6,848	3,415	8,080	8,696	8,203	8,565	10,641
	11.4	8.9	13.2	12.3	10.5	10.2	10.9
果物	2,248	1,366	2,968	2,698	2,156	2,022	2,489
	3.7	3.5	4.9	3.8	2.8	2.4	2.6
油脂・調味料	2,661	1,203	2,892	3,379	3,612	3,957	4,933
	4.4	3.1	4.7	4.8	4.6	4.7	5.1
菓子類	4,301	2,373	4,075	5,092	6,346	7,102	7,843
	7.1	6.2	6.7	7.2	8.1	8.5	8.1
調理食品	7,810	5,864	7,424	8,952	9,628	10,730	12,219
	13.0	15.2	12.1	12.6	12.4	12.8	12.6
飲料	3,601	2,769	3,467	4,081	4,399	4,608	5,624
	6.0	7.2	5.7	5.8	5.6	5.5	5.8
酒類	2,783	1,869	3,168	3,329	3,083	2,940	3,762
	4.6	4.8	5.2	4.7	4.0	3.5	3.9
外食	11,726	11,608	9,216	11,424	15,213	16,067	15,912
	19.5	30.1	15.1	16.1	19.5	19.2	16.4
賄い費	46	148	-	-	-	-	-
	0.1	0.4					
エンゲル係数(%)	24.0	23.8	23.7	23.9	23.9	25.0	26.6

表5. 都市による食料支出の比較

	人口5万 以上の市 の平均									
	北 陸	金 沢 市	新 潟 市	富 山 市	福 井 市	京 都 市	大 阪 市	上段：支出金額(円)	下段：食料支出に対する比率(%)	
集計世帯数	7,952	104	103	103	103	417	102	144		
世帯人員(人)	2	3	2	3	3	2	2	2		
世帯主の年齢(歳)	58	55	62	55	61	56	61	55		
消費支出計	252,351	278,878	223,582	293,891	236,065	270,041	254,756	219,495		
食料計	60,896	64,257	56,437	62,646	56,090	68,418	69,220	61,592		
穀類	5,063	4,943	5,313	5,511	4,592	4,795	6,071	4,928		
	8.3	8.3	8.4	8.8	8.2	7.0	8.8	8.0		
魚介類	4,956	5,440	5,541	5,351	4,895	4,698	5,680	4,457		
	8.1	9.2	8.6	9.5	8.7	6.9	8.2	7.2		
肉類	5,279	4,731	5,537	3,771	5,240	4,970	6,674	5,277		
	8.7	8.0	8.6	6.7	9.3	7.3	9.6	8.6		
乳卵類	2,880	2,836	2,967	2,759	2,772	2,912	3,343	2,529		
	4.7	4.8	4.6	5.3	4.9	4.3	4.8	4.1		
野菜・海藻	6,907	7,042	7,664	7,140	6,750	7,520	8,727	6,068		
	11.3	11.9	13.6	11.4	12.0	11.0	12.6	9.9		
果物	2,294	2,286	2,314	2,513	2,156	2,480	3,053	1,966		
	3.8	3.9	3.6	4.5	3.8	3.6	4.4	3.2		
油脂・調味料	2,634	2,614	2,687	2,549	2,466	2,501	2,957	2,267		
	4.3	4.4	4.2	4.5	4.4	3.7	4.3	3.7		
菓子類	4,322	4,292	5,091	3,903	4,300	4,512	5,006	3,820		
	7.1	7.2	7.9	6.9	7.7	6.6	7.2	6.2		
調理食品	7,890	8,344	9,166	7,568	7,931	8,801	9,112	7,996		
	13.0	14.1	14.3	13.4	14.5	12.9	13.2	13.0		
飲料	3,625	3,520	3,589	3,041	2,890	4,001	3,514	3,451		
	6.0	5.9	5.6	5.4	5.2	5.8	5.1	5.6		
酒類	2,776	3,007	2,659	3,600	2,651	2,863	2,693	2,929		
	4.6	5.1	4.1	6.4	4.7	4.2	3.9	4.8		
外食	12,217	10,189	12,351	8,792	9,446	18,159	12,389	15,466		
	20.1	17.2	19.2	15.6	16.8	26.5	17.9	25.1		
賄い費	53	0	0	0	0	206	0	439		
	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.7		
エンゲル係数(%)	24.1	22.1	23.0	25.2	23.8	25.3	27.2	28.1		

市、富山市、福井市)と「東京都区部」「京都市」「大阪市」における、食品類毎の「食料」支出に占める比率を示した。

消費支出金額をみると、「北陸地方」は全国(人口5万以上の市)平均に比べ、若干少なく、59,244円となっているが、「金沢市」は64,257円で、北陸地方の4都市の中では最も多く、また、全国平均も上回っている。「東京都」「京都市」「大阪市」の3都市は、どこも全国平均を上回っているが、特に「京都市」が最も多く、次いで「東京都」であり、「大阪市」は若干上回る傾向であった。

食料費に対する食品類毎の消費比率をみると、まず、「北陸地方」として、全国平均よりも多いのは「魚介類」で全国平均が8.1%に対し、「北陸地方」は9.2%であり、「調理食品」も若干多くなっていた。

「金沢市」については、「菓子類」が支出金額で5,091円、支出比率で7.9%と、やはり全国平均あるいは他都市よりも多くなっている。「野菜・海藻」と「果物」では、消費金額としては少くないものの、消費比率では全国平均を下回っていた。

「魚介類」では、先述のように、「北陸地方」では高くなっており、特に、消費比率で「新潟市」9.5%、「富山市」9.0%と高いのに対し、「金沢市」は8.6%とこの地方の中では低くなっていた。しかし、消費金額では5,541円と北陸地方の平均を上回り、「富山市」に次いで多くなっている。

6. 魚介類品目毎の消費数量の推移

魚介類の品目毎の消費数量について、1963年より5年毎の経年変化を表6に示した。

2014年の「生鮮魚介」の消費数量は28,605gで「鮮魚」91.2%と「貝類」8.1%に分けられる。「鮮魚」と「貝類」については、1980～2000年頃に若干「貝類」が多くなる時期があったが、ほぼこの比率で推移してきた。

「鮮魚」における品目毎の消費数量および「鮮魚」の消費数量に対する比率をみると、2014年に最も多い品目は「さけ」の2,576g、9.9%であり、2013年も同様に最も多く11.0%で、近年は、諸費数量のほぼ1割を占めている。次いで多いのは、

「まぐろ」2,312g、8.9%であり、「いか」2,085g、8.0%、「ぶり」1,940g、7.4%と続いているが、「いか」をのぞいては、大型魚で切り身で購入するものが多いといえる。

マルハニチロ株式会社が行った『魚食文化に関する調査』では、「ふだんよく食べる魚介類(複数回答)」で1位に上げられたものが「さけ(72.5%)」であり、1位については、この結果とも合致するものである。この調査では、2位には「さば(56.3%)」が上げられ、「えび(56.1%)」「まぐろ(54.3%)」「いか(53.8%)」「あじ(46.6%)」「さんま(46.2%)」「あさり(38.2%)」「ぶり(35.6%)」「たこ(31.3%)」と続いていたが、やや傾向が異なっていた。

次に、50年間の消費動向を検討した。

1963年の「鮮魚」における品目毎の消費数量および「鮮魚」の消費数量に対する比率をみると、最も多いのは、「いか」9,249g、14.4%、次いで「あじ」8,096g、12.6%、「さば」7,118g、11.1%、「かれい」3,493g、5.5%と続いていたが、これらは、1尾丸ごと購入し調理することの多い魚介類である。「いか」については、2000年頃まで消費数量の比率で10%以上を維持し、先に述べたように、現在も「さけ」に次いで消費量が多くなっている。しかし、この当時消費量の多かった「あじ」「さば」「かれい」の推移をみると、「あじ」は1970年頃までに年間8kgから2kg台へと急激に減少し、現在は、年間1kg程度の消費数量でその比率も4.0%に止まっている。「さば」については、当初7kgの消費数量であったものが、1980年代には2kgを割り、現在は、1.1kgとなっている。同様に「かれい」についても3.5kg位の消費数量であったが、現在は1/3の1kg程度に止まっている。

「貝類」についてみると、1963年から2014年までに4,476gから2,511gと56%に減少しているが、品目別にみた場合、「しじみ」の減少は著しいが、「あさり」「かき」では、貝類の中での比率に大きな変化はなかった。

「塩干魚介」は、1963年から2014年までに10,258gから7,973gと減少しているが、その減少率は77.7%で、鮮魚や貝類ほど大きな減少率ではなかった。

魚介類の消費動向に関する研究（2）

表6. 魚介類消費数量の経年変化

	上段：消費数量（g） 下段：食料消費数量に対する比率（%）											
	1963年	1968年	1973年	1978年	1983年	1988年	1993年	1998年	2003年	2008年	2013年	2014年
生鮮魚介	68,550	63,644	54,752	56,980	53,501	49,857	49,938	45,107	42,327	36,332	30,582	28,605
鮮魚	64,074	58,809	50,663	51,184	47,891	44,017	44,289	39,801	37,430	32,912	27,806	26,081
	93.5	92.4	92.5	89.8	89.5	88.3	88.7	88.2	88.4	90.6	90.9	91.2
まぐろ	2,551	2,928	2,779	3,740	3,121	3,104	3,321	3,538	3,373	2,491	2,369	2,312
	4.0	5.0	5.5	7.3	6.5	7.1	7.5	8.9	9.0	7.6	8.5	8.9
あじ	8,096	5,375	3,125	2,267	2,688	2,816	2,680	2,420	1,897	1,690	1,087	1,055
	12.6	9.1	6.2	4.4	5.6	6.4	6.1	6.1	5.1	5.1	3.9	4.0
いわし	2,459	1,510	2,015	2,711	2,624	2,213	2,008	1,462	1,010	691	737	688
	3.8	2.6	4.0	5.3	5.5	5.0	4.5	3.7	2.7	2.1	2.7	2.6
かつお	1,117	869	1,098	1,437	1,373	1,201	1,515	1,294	1,411	1,094	1,002	968
	1.7	1.5	2.2	2.8	2.9	2.7	3.4	3.3	3.8	3.3	3.6	3.7
かれい	3,493	3,183	2,547	2,740	2,551	2,211	2,060	1,728	1,316	1,277	1,038	1,047
	5.5	5.4	5.0	5.4	5.3	5.0	4.7	4.3	3.5	3.9	3.7	4.0
さけ	1,767	1,374	1,187	1,059	1,240	1,134	2,336	3,005	3,103	3,098	3,058	2,576
	2.8	2.3	2.3	2.1	2.6	2.6	5.3	7.6	8.3	9.4	11.0	9.9
さば	7,118	5,674	3,077	3,492	1,933	1,465	1,056	1,811	1,473	1,321	1,184	1,148
	11.1	9.6	6.1	6.8	4.0	3.3	2.4	4.6	3.9	4.0	4.3	4.4
さんま	3,176	1,387	3,282	2,198	2,620	2,521	2,434	2,122	2,416	2,360	1,342	1,562
	5.0	2.4	6.5	4.3	5.5	5.7	5.5	5.3	6.5	7.2	4.8	6.0
たい	1,690	1,574	994	1,158	1,010	1,043	1,100	1,018	863	729	505	603
	2.6	2.7	2.0	2.3	2.1	2.4	2.5	2.6	2.3	2.2	1.8	2.3
ぶり	1,185	1,841	2,261	2,327	2,424	2,183	1,921	1,953	1,930	2,041	2,169	1,940
	1.8	3.1	4.5	4.5	5.1	5.0	4.3	4.9	5.2	6.2	7.8	7.4
いか	9,249	8,626	7,689	6,507	6,186	5,983	5,282	3,993	3,545	3,115	2,306	2,085
	14.4	14.7	15.2	12.7	12.9	13.6	11.9	10.0	9.5	9.5	8.3	8.0
たこ	1,209	2,075	1,535	1,549	1,276	1,179	1,444	1,194	921	692	789	681
	1.9	3.5	3.0	3.0	2.7	2.7	3.3	3.0	2.5	2.1	2.8	2.6
えび	...	2,019	3,339	4,096	2,438	3,206	3,560	2,478	2,087	2,005	1,702	1,330
	...	3.4	6.6	8.0	5.1	7.3	8.0	6.2	5.6	6.1	6.1	5.1
かに	761	945	1,453	1,407	1,073	742	620	552
	1.6	2.1	3.3	3.5	2.9	2.3	2.2	2.1
他の鮮魚	20,964	20,374	15,735	15,904	15,643	9,926	9,218	8,153	7,095	6,236	5,335	5,006
	32.7	34.6	31.1	31.1	32.7	22.6	20.8	20.5	19.0	18.9	19.2	19.2
さしみ盛合わせ	2,886	2,900	2,225	2,374	2,099	1,807	1,790
	6.6	6.5	5.6	6.3	6.4	6.5	6.9
貝類	4,476	4,835	4,088	5,796	5,610	5,840	5,649	5,306	4,818	3,402	2,765	2,511
	6.5	7.6	7.5	10.2	10.5	11.7	11.3	11.8	11.4	9.4	9.0	8.8
あさり	1,490	1,888	1,227	1,956	2,351	2,333	2,009	1,926	1,599	1,111	1,059	916
	33.3	39.0	30.0	33.7	41.9	39.9	35.6	36.3	33.2	32.7	38.3	36.5
しじみ	912	855	834	927	695	741	874	844	570	313	280	290
	20.4	17.7	20.4	16.0	12.4	12.7	15.5	15.9	11.8	9.2	10.1	11.5
かき	920	987	761	1,060	1,137	1,083	936	811	745	619	494	502
	20.6	20.4	18.6	18.3	20.3	18.5	16.6	15.3	15.5	18.2	17.9	20.0
ほたて貝	755	1,159	998	1,306	980	636	519
	12.9	20.5	18.8	27.1	28.8	23.0	20.7
他の貝	1,154	19,323	18,098	16,791	1,427	929	671	727	574	352	285	281
	25.8	399.6	442.7	289.7	25.4	15.9	11.9	13.7	11.9	10.3	10.3	11.2
塩干魚介	10,258	10,571	11,493	10,641	14,509	13,996	13,747	11,990	10,533	9,917	8,877	7,973
塩さけ	1,526	2,159	3,418	3,121	4,215	3,307	3,001	2,057	1,881	1,801	1,652	1,418
	14.9	20.4	29.7	29.3	29.1	23.6	21.8	17.2	17.9	18.2	18.6	17.8
たらこ	496	1,299	1,187	642	1,026	1,081	994	1,166	832	808	792	739
	4.8	12.3	10.3	6.0	7.1	7.7	7.2	9.7	7.9	8.1	8.9	9.3
しらす干し	380	281	397	370	331	583	562	521	522	519
	3.3	2.6	2.7	2.6	2.4	4.9	5.3	5.3	5.9	6.5
干しあじ	907	1,228	1,150	1,200	1,333	1,748	1,800	1,618	1,247	1,076	837	774
	8.8	11.6	10.0	11.3	9.2	12.5	13.1	13.5	11.8	10.9	9.4	9.7
干しいわし	1,111	956	816	826	805	675	616	520	380
	10.8	9.0	7.1	7.8	5.5	4.8	4.5	4.3	3.6
煮干し	1,929	1,093	859	809	820	638	534	418	302	265	210	170
	18.8	10.3	7.5	7.6	5.7	4.6	3.9	3.5	2.9	2.7	2.4	2.1
かつお節・削り節	864	732	650	462	443	411	448	408	376	314	274	277

品目別にみると「塩さけ」は1963年に1,526gであったが、1970年～1990年頃に消費数量が増え4kgを超える時期もあったが、現在は1,418kgと、ほぼ50年前の水準となっている。「干しあじ」も「塩さけ」と同じ傾向であった。一方、「干いわし」は、近年の数量は出されていないが、1963年から2003年までに1/3に減少していた。これに対し、「たらこ」は約2倍に、「しらす干し」は1973年からであるが、約1.4倍に増加していた。「塩干魚介」は、魚介類が減少傾向にあるとはいえ、生鮮魚介類ほどの大きな減少はないと思われた。

以上、近年の魚介類、特に、生鮮魚については小型の骨付き魚の消費が減り、切り身魚で購入できる大型魚の購入に移行していることが、推察された。

7. 地域別の「魚介類」の消費数量

先に、北陸地方の4都市（金沢市、新潟市、富山市、福井市）と「東京都区部」「京都市」「大阪市」における、食品類毎の消費金額を検討したが、ここでは、消費数量より地域差の検討を行った。表7では、上記の都市の消費数量を品目毎に示した。数量の下段は全国平均値との比率を示してある。

「生鮮魚介」では、北陸地方は全国平均の1.29倍と高く、「金沢市」は1.31倍と北陸4県の中で最も高くなっている。また「生鮮魚介」のうちの「鮮魚」についても北陸地方は全国平均の1.31倍、「金沢市」は1.34倍と同様に「金沢市」の消費数量は大きく、魚介類の摂取が多くなっていることが明確になった。

次に品目別の特徴を検討した。

「北陸地方」についてみると、全国平均消費数量と比べて最も多いのは、「かに」で2倍以上の消費数量となっている。次いで「ぶり（1.92倍）」「かれい（1.72倍）」「いか（1.55倍）」「いわし（1.52倍）」となっている。反対に少ないものとしては、「まぐろ（0.69倍）」「かつお（0.71倍）」が上げられる。

「金沢市」についてみると全国平均消費数量と比べて最も多いのは、「かに」で3.58倍の消費数量となっている。次いで、「かれい（2.48倍）」「ぶり（2.08倍）」「いわし（1.48倍）」となっている。

反対に少ないものは、「北陸地方」全体の比率と同様に「まぐろ（0.59倍）」「かつお（0.45倍）」である。「まぐろ」や「かつお」は太平洋での漁獲量が多いことから、当地の食生活では、元々食習慣の少ないものであり、現在もその影響が残っているものと考えられる。また、「金沢市」は「北陸地方」とほぼ同じ傾向であるが、多いものの比率は大きく、また、少ないものの比率が小さいことは、より地域特性を顕著にあらわしているものといえよう。

「貝類」では、「新潟市」や「富山市」で多く消費されている「しじみ」の「北陸地方」の消費数量は全国平均消費数量の1.21倍となっている。「新潟市」では、「あさり」や「ほたて貝」の消費数量も高くなっている。しかし、「金沢市」は、貝類の消費はあまり多くなかった。

「塩干魚介」では、「新潟市」や「富山市」で「塩さけ」の消費数量が高いため、「北陸地方」では、全国平均消費数量の1.78倍となっている。同様に「新潟市」「富山市」では「たらこ」の消費数量も多くなっていることから、「北陸地方」では高くなっている。しかし、「金沢市」は「貝類」と同様にどれも低い水準であった。

以上、「北陸地方」の「金沢市」は鮮魚の消費志向が高く、その中でも、近海で漁獲される、「かに」や「かれい」の消費数量の高いことが明確になった。

8. 「金沢市」における魚介類の消費動向

前報において、『平成25年家計調査年報』より、「かに」は全国47都市中第4位「かれい」は全国第5位であることを報告したが、今回の調査資料、『平成26年家計調査年報』においても、「金沢市」における消費数量の高いものとして「かに」や「かれい」さらに、「ぶり」などが上げられた。そこで、これらの傾向が、一時的なものであるか、経年的なものであるかを検証するために、1988年から2014年までを5年間隔で6時点取り上げ、「北陸地方」「金沢市」における「鮮魚」の各品目について表7と同様に示した（表8）。

1988年における全国平均消費数量と比べて消費数量の高いものをあげると、「かに（7.98倍）」「ぶり（3.85倍）」「かれい（2.56倍）」「あじ（1.78

表7. 都市による魚介類消費数量の比較

上段：消費数量（g） 下段：食料消費数量に対する比率（%）

	全国	北陸	金沢市	新潟市	富山市	福井市	東京都区部	京都市	大阪市
魚介類 (購入金額円)	79,829	90,742	90,835	87,116	89,784	78,988	83,390	86,704	74,875
生鮮魚介	28,605	36,789	37,333	36,644	36,708	29,985	26,432	26,132	26,769
		1.29	1.31	1.28	1.28	1.05	0.92	0.91	0.94
鮮魚	26,081	34,161	34,854	33,347	34,224	28,151	23,634	23,944	24,756
		1.31	1.34	1.28	1.31	1.08	0.91	0.92	0.95
まぐろ	2,312	1,588	1,366	1,826	1,944	1,217	3,158	1,254	1,330
		0.69	0.59	0.79	0.84	0.53	1.37	0.54	0.58
あじ	1,055	1,461	1,361	1,202	1,519	531	917	582	786
		1.38	1.29	1.14	1.44	0.50	0.87	0.55	0.75
いわし	688	1,047	1,026	1,074	709	555	559	722	740
		1.52	1.49	1.56	1.03	0.81	0.81	1.05	1.08
かつお	968	688	433	1,282	420	600	774	871	953
		0.71	0.45	1.32	0.43	0.62	0.80	0.90	0.98
かれい	1,047	1,798	2,572	2,525	1,243	2,004	799	1,393	1,177
		1.72	2.46	2.41	1.19	1.91	0.76	1.33	1.12
さけ	2,576	2,736	2,501	3,173	2,650	1,972	2,482	2,449	2,364
		1.06	0.97	1.23	1.03	0.77	0.96	0.95	0.92
さば	1,148	1,382	1,384	1,237	1,274	1,194	788	1,040	1,223
		1.20	1.21	1.08	1.11	1.04	0.69	0.91	1.07
さんま	1,562	1,454	1,285	1,709	1,344	1,057	1,360	1,127	1,071
		0.93	0.82	1.09	0.86	0.68	0.87	0.72	0.69
たい	603	665	665	403	315	195	478	1,114	816
		1.10	1.10	0.67	0.52	0.32	0.79	1.85	1.35
ぶり	1,940	3,721	4,044	2,628	5,561	3,240	1,668	2,014	2,072
		1.92	2.08	1.35	2.87	1.67	0.86	1.04	1.07
いか	2,085	3,232	2,482	3,902	3,598	3,054	1,695	1,846	1,578
		1.55	1.19	1.87	1.73	1.46	0.81	0.89	0.76
たこ	681	679	598	603	528	802	627	852	973
		1.00	0.88	0.89	0.78	1.18	0.92	1.25	1.43
えび	1,330	1,612	1,625	1,472	1,374	993	1,093	1,453	1,636
		1.21	1.22	1.11	1.03	0.75	0.82	1.09	1.23
かに	552	1,184	1,975	1,190	809	1,982	391	448	922
		2.14	3.58	2.16	1.47	3.59	0.71	0.81	1.67
他の鮮魚	5,006	7,420	7,963	5,925	6,342	4,653	4,152	4,978	5,212
		1.48	1.59	1.18	1.27	0.93	0.83	0.99	1.04
さしみ盛合わせ	1,790	2,261	1,993	1,543	3,253	2,260	2,004	1,541	1,666
		1.26	1.11	0.86	1.82	1.26	1.12	0.86	0.93
貝類	2,511	2,626	2,456	3,324	2,484	1,797	2,752	2,193	2,014
		1.05	0.98	1.32	0.99	0.72	1.10	0.87	0.80
あさり	916	988	820	1,357	933	966	1,047	836	637
		1.08	0.90	1.48	1.02	1.05	1.14	0.91	0.70
しじみ	290	352	254	499	407	237	358	278	162
		1.21	0.88	1.72	1.40	0.82	1.23	0.96	0.56
かき(貝)	502	376	498	418	277	216	559	572	510
		0.75	0.99	0.83	0.55	0.43	1.11	1.14	1.02
ほたて貝	519	561	374	887	412	219	512	351	390
		1.08	0.72	1.71	0.79	0.42	0.99	0.68	0.75
他の貝	281	357	508	323	455	173	273	272	240
		1.27	1.81	1.15	1.62	0.62	0.97	0.97	0.85
塩干魚介	7,973	10,211	6,568	12,159	10,252	6,497	7,043	6,958	5,936
		1.28	0.82	1.53	1.29	0.81	0.88	0.87	0.74
塩さけ	1,418	2,526	1,044	4,057	2,418	1,350	1,314	1,234	997
		1.78	0.74	2.86	1.71	0.95	0.93	0.87	0.70
たらこ	739	995	686	1,261	1,119	585	748	672	590
		1.35	0.93	1.71	1.51	0.79	1.01	0.91	0.80
しらす干し	519	447	434	405	370	411	624	682	677
		0.86	0.84	0.78	0.71	0.79	1.20	1.31	1.30
干しあじ	774	655	593	565	777	456	982	489	409
		0.85	0.77	0.73	1.00	0.59	1.27	0.63	0.53
煮干し	170	228	176	155	230	108	121	76	88
		1.34	1.04	0.91	1.35	0.64	0.71	0.45	0.52
他の塩干魚介	4,388	5,463	3,684	5,865	5,088	3,576	3,398	3,974	3,301
		1.24	0.84	1.34	1.16	0.81	0.77	0.91	0.75
かつお節・削り節	277	249	171	309	221	207	277	295	301
		0.90	0.62	1.12	0.80	0.75	1.00	1.06	1.09

倍)」「いわし(1.69倍)」となっている。この年の「まぐろ」は0.19倍で、「かつお」は0.21倍であり、今日よりも地域の特徴が顕著な消費動向を示していた。

1993年における全国平均消費数量と比べて消費数量の高いものをあげると、「ぶり(3.60倍)」「いわし(3.25倍)」「かれい(2.63倍)」「かに(2.33倍)」「さば(1.79倍)」であった。

1998年における全国平均消費数量と比べて消費数量の高いものをあげると、「かに(2.80倍)」「かれい(2.60倍)」「ぶり(2.52倍)」「いわし(2.01倍)」「さば(1.61倍)」であった。

2003年における全国平均消費数量と比べて消費数量の高いものをあげると、「かに(4.32倍)」「かれい(2.95倍)」「ぶり(2.51倍)」「あじ(1.81倍)」「いわし(1.73倍)」であった。

2008年における全国平均消費数量と比べて消費数量の高いものをあげると、「かに(4.22倍)」「かれい(2.57倍)」「ぶり(2.33倍)」「あじ(1.39倍)」であった。

2014年における全国平均消費数量と比べて消費数量の高いものは先述の通り、「かに」「かれい」「ぶり」「いわし」「あじ」である。

以上のように、この四半世紀をみても、当地においては、「かに」「かれい」「ぶり」さらに「いわし」の位置づけの高いことが明確になった。

「かに」は大型の「ずわいがに」よりもむしろ小型の「香箱がに」が日常の副菜として手軽に喫食されてきたこと、「かれい」は煮魚の素材として、また、「ぶり」は少しご馳走として副食などによく使われているものである。また、「いわし」は以前、大量に漁獲されたことから、日常使う魚介として位置づけられ、保存食としての「こんかいわし」やそれを活用した料理などが様々に育まれていた。今日、食品の購入が、スーパーマーケットなどの量販店になり、食品トレーや食品包装しを用いた販売が多くなっていることや¹³⁾、家庭においても調理簡便化傾向から、切り身魚が購入されやすくなっている。しかし、当地の魚食文化を考えた時、我々の周囲にある多様な魚介類を積極的に活用することにより食生活の内容を充実して行きたいものである。

IV まとめ

以上、魚食の動向を把握するため、『家庭調査年報』における「魚介類」への支出金額と消費数量により検討した。

- ①食料費支出における「魚介類」の消費支出の経年変化をみたところ、所謂、日本型食生活のモデルの時期といわれる1980年代は「魚介類」への支出も大きかったが、近年は減少傾向となっている。
- ②収入階級と「魚介類」の消費支出では、「魚介類」は、「穀類」などと同様に所得の多い世帯ほど少なくなる傾向を示していた。これらに対し、「肉類」は所得と比例関係であったことから、日本人の食生活において、「魚介類」は日常的・必需的感覚で消費されるのに対し、「肉類」は価格が高くないのにもかかわらず、依然、贅沢品的な感覚が残されていることが推察された。
- ③世帯主の年齢階級と「魚介類」の消費支出では、「野菜・海藻」や「果物」と同様に世代間格差が大きく、60歳を境にその比率を高めていた。また、世帯人員数との関係では、世帯人員「2人」の世帯が最も多く、次いで「3人」の世帯であり、世帯人員が4人以上では、「魚介類」よりも「肉類」が多くなっていた。
- ④当地域の特徴を明確にするため、表5では、北陸地方の4都市(金沢市、新潟市、富山市、福井市)と「東京都区部」「京都市」「大阪市」における、食品類毎の「食料」支出に占める比率を比較したところ、「北陸地方」では高くなっており、特に、消費比率で「新潟市」「富山市」は高いのに対し、「金沢市」はこの地方の中では低くなっていた。しかし、消費金額では北陸地方の平均を上回り、「富山市」に次いで多くなっている。
- ⑤魚介類品目毎の消費数量の推移をみると、近年の魚介類、特に、生鮮魚については「あじ」や「かれい」などの小型の骨付き魚の消費が減り、「さけ」や「まぐろ」のような切り身魚で購入できる大型魚の購入に移行していることが推察された。
- ⑥北陸地方の4都市(金沢市、新潟市、富山市、福井市)と「東京都区部」「京都市」「大阪市」

表8. 北陸地方および金沢市の魚介類消費数量の経年変化

魚介類 (購入金額円)	1983年				2003年				2008年				2014年				
	全国	北陸	金沢市	北陸	全国	北陸	金沢市	北陸	全国	北陸	金沢市	北陸	全国	北陸	金沢市		
	消費数量(g)																
生鮮魚介	49,857	63,513	72,698	63,360	74,691	45,107	58,320	59,645	42,327	52,631	55,947	36,332	48,621	45,225	28,605	36,789	37,333
	1.27	1.46	1.50	1.29	1.32	1.29	1.29	1.32	1.24	1.24	1.34	1.34	1.24	1.24	1.29	1.29	1.31
鮮魚	44,017	57,266	65,820	44,289	57,633	39,801	50,340	54,207	37,430	47,632	50,995	32,912	44,755	42,482	26,081	34,161	34,854
	1.30	1.50	1.53	1.30	1.26	1.26	1.26	1.36	1.27	1.27	1.36	1.36	1.29	1.36	1.29	1.31	1.34
まぐろ	3,104	1,102	596	3,321	1,528	1,448	1,894	1,284	3,373	2,049	1,508	2,491	1,602	1,825	2,312	1,588	1,366
	0.36	0.19	0.46	0.44	0.54	0.36	0.54	0.36	0.61	0.61	0.45	0.64	0.61	0.61	0.69	0.69	0.59
あじ	2,816	3,725	5,025	2,680	3,270	4,402	3,157	3,352	1,897	2,163	3,441	1,690	2,556	2,351	1,055	1,461	1,361
	1.32	1.78	1.81	1.22	1.64	1.81	1.30	1.39	1.14	1.14	1.81	1.51	1.39	1.39	1.38	1.37	1.29
いわし	2,231	3,211	3,767	1,277	2,988	4,156	1,462	2,938	1,010	1,013	1,747	691	798	1,099	688	1,047	1,026
	1.44	1.69	1.69	2.34	3.25	2.01	1.24	2.01	1.00	1.00	1.73	1.15	1.59	1.59	1.52	1.49	1.49
かつお	1,201	349	257	1,515	669	480	1,294	643	475	697	709	1,094	668	402	968	688	433
	0.29	0.21	0.21	0.44	0.32	0.32	0.50	0.37	0.49	0.49	0.50	0.61	0.37	0.37	0.71	0.71	0.45
かれい	2,211	3,638	5,661	2,060	4,106	5,410	1,728	3,552	4,489	1,316	3,878	1,277	2,837	3,288	1,047	1,798	2,572
	1.85	2.56	2.56	1.99	2.63	2.63	2.06	2.80	1.75	2.95	2.95	2.22	2.57	2.57	1.72	2.46	2.46
さけ	1,134	1,462	1,067	2,336	2,848	2,506	3,005	3,027	2,117	3,103	2,792	3,098	3,427	2,562	2,576	2,736	2,501
	1.29	0.94	0.94	1.22	1.07	1.01	1.01	0.70	1.08	0.90	0.90	1.11	0.83	0.83	1.06	0.97	0.97
さば	1,465	2,356	2,024	1,056	1,394	1,892	1,811	2,430	2,908	1,473	1,864	1,821	1,321	1,603	1,556	1,148	1,382
	1.61	1.38	1.38	1.32	1.79	1.81	1.34	1.61	1.27	1.24	1.24	1.21	1.18	1.18	1.20	1.21	1.21
さんま	2,521	1,954	1,594	2,434	2,172	1,884	2,122	1,941	1,375	2,416	1,944	2,360	2,503	1,833	1,562	1,454	1,285
	0.78	0.63	0.63	0.89	0.77	0.77	0.91	0.85	0.92	0.85	0.85	1.06	0.78	0.78	0.93	0.82	0.82
たい	1,043	757	1,245	1,100	923	1,652	1,018	900	1,202	863	629	729	603	861	603	665	665
	0.73	1.19	1.19	0.84	1.50	1.18	0.88	1.18	0.73	0.73	1.10	0.83	1.18	1.18	1.10	1.10	1.10
ぶり	2,183	5,508	8,395	1,921	4,897	6,913	1,953	4,922	1,930	4,633	4,850	2,041	4,323	4,532	1,940	3,721	4,044
	2.52	3.85	3.85	2.55	3.60	3.60	2.09	2.52	2.40	2.51	2.51	2.12	2.22	2.22	1.92	2.08	2.08
いか	5,983	8,596	9,083	5,282	7,375	7,741	3,993	5,515	4,710	3,545	5,332	5,461	3,115	4,868	3,955	2,085	3,232
	1.44	1.52	1.52	1.40	1.47	1.47	1.38	1.18	1.50	1.54	1.54	1.56	1.27	1.27	1.55	1.55	1.55
たこ	1,179	1,007	937	1,444	1,120	1,258	1,194	1,092	895	921	1,111	624	528	423	681	679	598
	0.85	0.79	0.79	0.78	0.87	0.87	0.91	0.75	0.91	1.21	0.68	0.78	0.61	0.61	1.00	0.88	0.88
えび	3,206	3,597	4,933	3,580	4,132	4,798	2,478	2,856	3,534	2,087	2,203	2,289	2,142	1,330	1,612	1,625	1,625
	1.12	1.54	1.54	1.15	1.34	1.34	1.15	1.43	1.06	1.32	1.32	1.14	1.07	1.07	1.21	1.21	1.21
かに	945	2,028	7,539	1,450	2,307	3,985	1,407	2,722	3,944	1,073	2,811	4,639	742	1,745	3,132	1,184	1,975
	2.15	7.98	7.98	1.59	2.33	2.33	1.93	2.80	2.62	4.32	4.32	2.85	4.22	4.22	2.14	3.58	3.58
他の鮮魚	8,132	10,147	13,598	7,496	9,466	12,917	6,393	7,789	11,053	7,095	10,215	10,235	6,236	8,959	9,901	5,006	7,420
	1.25	1.67	1.67	1.26	1.72	1.72	1.22	1.73	1.44	1.44	1.44	1.59	1.59	1.48	1.48	1.48	1.48
さしみ盛合わせ	2,888	3,752	3,428	2,900	4,369	3,052	2,225	3,393	1,971	2,374	3,173	2,099	3,017	2,053	1,790	2,261	1,993
	1.30	1.19	1.19	1.51	1.05	1.05	1.52	0.89	1.34	0.94	0.94	1.44	0.98	0.98	1.26	1.11	1.11

における消費数量より地域差の検討を行ったところ、「北陸地方」の「金沢市」は鮮魚の消費志向が高く、その中でも、近海で漁獲される、「かに」や「かれい」の消費数量の高いことが明確になった。また、この四半世紀をみても、当地においては、「かに」「かれい」「ぶり」さらに「いわし」の位置づけが高かった。

〈参考文献・引用文献〉

- 1) http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/style.html 「日本型食生活を見直そう」
- 2) 新澤祥恵他 2014 「魚介類の消費動向に関する研究」『北陸学院大学短期大学部研究紀要』7号 267-274
- 3) 下村道子他 2014 『三訂 調理学』 光生館
- 4) 吉本佳生『マーケティングに使える家計調査』, 2015 講談社
- 5) 総務庁統計局『家計調査年報 平成26年』, 大蔵省印刷局
- 6) 総務庁統計局『家計調査年報 平成25年』, 大蔵省印刷局
- 7) 総務庁統計局『家計調査年報 平成20年』, 大蔵省印刷局
- 8) 総務庁統計局『家計調査年報 平成15年』, 大蔵省印刷局
- 9) 総務庁統計局『家計調査年報 平成10年』, 大蔵省印刷局
- 10) 総務庁統計局『家計調査年報 平成5年』, 大蔵省印刷局
- 11) 総務庁統計局『家計調査年報 昭和63年』, 大蔵省印刷局
- 12) <http://shouwashi.com/transition-engel'scoefficient.html> 「戦後昭和史ーエンゲル係数と平均実支出」
- 13) 日本フードスペシャリスト協会 2013 『食品の消費と流通』 建帛社